

パネル発表「動物たちとともに育つ子どもたち」

辻川佳奈

1 はじめに

本校は大津市南部に位置し、児童数は95名、職員数はおよそ60名の大規模校です。すぐ近くには琵琶湖を臨み、古くは旧東海道の街道筋にあたります。昔からの住民がいる一方、近年宅地化・ショッピング

モールの建設などが進み、児童数は序々に増加傾向にあります。

2 本校の飼育活動について

大津市の幼小校園の中でも飼育動物の数が多く、ウサギ13羽、クジャク1羽、セキセイインコ約30羽を飼育しています。



世話の中心は5・6年生で組織される委員会活動の中の1つ、子ども動物園委員会です。それに加えて、アレルギー等がなければ、全児童が必ず動物たちと接する機会が持てるように、5年前より3年生以上は学年ごとに月替わりで、飼育当番に参加しています。

平成17年度からは、大津開業獣医師会の先生方にご指導いただくようになり、現在毎年、委員会児童へのふれあい教室や日頃の動物たちの健康管理、けがや病気の治療、教職員研修等でお世話になっています。また、滋賀県獣医師会が実施されているモニター調査事業を活用し、飼育環境を衛生面からご指導いただいています。

休日・長期休業中の世話は、教職員でしています。

年度初めに当番を組んで担当しますが、365日一日も欠かさず、というわけにはなかなかいきません。しかし、教職員が世話により関わるようになり、職員室で動物たちについての話題が増えました。

動物たちについての話題が増えました。

2 子どもたちと動物たちの関わり

(1) ふれあい教室

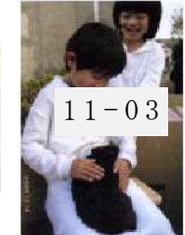
委員会活動は、月1回で、毎年5月の2回目に、獣医師の先生方からウサギへの接し方や体の仕組みについて教えていただきます。早い時期に自分たちが世話をする動物について正しい知識や接し方を学ぶことで、子どもたちはその後の毎日の世話を自信を持ってできるようになりました。普段の世話でも、委員会以外の子どもたちに自分たちが教えてもらったことを伝える様子もよく見受けられます。

(2) 常時活動

委員会の子どもたちは担当曜日の掃除時間に飼育小屋へ行き、掃除、えさやり、水かえ等の世話をします。3年生以上の飼育当番の子どもたちも同じ時間に来て、教えてもらいながら世話をします。

(3) ふれあいデー

児童数が多く、委員会児童以外の子どもたちが動物たちと関わる時間をなかなか確保できないことから、天候の良い日にウサギたちとふれあえる機会を設けています。今年度は新型インフルエンザの影響もあり、1・2年生しか実施できなかったのが残念です。



(4) 啓発活動

全校のみんなに自分たちの学校の動物たちのことを、より身近に感じ、正しい接し方を知ってもらうために、1年間の中で色々な活動を工夫するようにしています。

- ・ウサギたちの名前、特徴、性格等を1羽ずつカードにして、掲示する。
- ・ふれあい教室で教えていただいたことを新聞にして、全校に紹介する。
- ・ポスター、放送等で動物たちの紹介をする。
- ・全校に呼びかけて、自分の家のペット紹介・自慢大会をする。など。

(5) その他

委員会や飼育当番だけでなく、各学年の教科学習の中で



きた教材として、動物たちの存在が活かされています。また、近隣の保育園や幼稚園の子どもたち、小さな子どもさんのおられる家族連れのお散歩コースにもなっています。卒業した中学生たちが訪れ、自分たちの在校中と変わらずくじゃくのクーちゃんがいることを懐かしむ声もよくきかれます。

(6) 教職員研修について

平成21年7月、夏期休業中には大津開業獣医師会の先生方にお願ひし、教職員への飼育動物研修を本校で実施していただきました。市内の幼稚園の先生方との合同の研修となり、幼小間の交流の意味でも意義の



ある研修となりました。

3 成果と今後の課題★

何よりも地域の獣医師の先生方とのつながりを持たせていただいたことから、子どもたちや教職員が飼育動物について正しい知識や世話の仕方を知り、自分たちの学校の動物たちとして愛情を感じながら世話ができるようになってきたことが一番大きな成果ではないかと実感します。

もっと身近に動物たちと子どもたちがふれあえる環境作りや場の設定には、たくさ

んの職員の理解と協力がまだまだ必要です。飼育活動を通して感じる命の大切さや重みを学習活動やカリキュラムの中に着実に根付かせていくことができれば、学校で動物を飼育していくことの意義を再認識していくことができるのではないのでしょうか。

(滋賀県大津市立瀬田東小学校講師)

